

さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者: 三和地区社会福祉協議会
会長 福田 隆一
編集責任者: 広報部長 川上 保
事務局: 三和保健福祉センター内
(サンハート内)
電話: 0436-37-7100

千葉県共同募金会
22年度歳末たすけあい募金
ご協力御礼

三和地区募金額 295,339円

三和地区各町会長の皆様へは、既に市原市長・市社協会長・地区社協会長の連名で書面にて御礼申し上げたところですが、募金にご協力を賜りました地域住民の皆様へ、改めてお礼申し上げます。

この募金を財源に、ご高齢者に対する歳末福祉事業が各所で展開されたことをご報告申し上げます。

地区社協 地域づくり部
部長 渡邊 正

ご高齢者の安心・安全 ・ご長寿を願って

各小域福祉ネットワーク/歳末ふれあい福祉事業を展開

三和地区社会福祉協議会の構成団体である各小域福祉ネットワークでは、昨年末に歳末福祉事業を各所で展開致しました。

この取り組みは、各ネットワークが、それぞれ独自に企画・立案し、市社会福祉協議会へ事業申請することによって支給される、歳末福祉活動助成金をベースに運営され、地域の皆様方にご協力頂いた左記たすけあい募金とその原資となっております。以下に、各ネットワークの取り組みをご紹介します。なお、市西地区につきましては、23年度末より取組む計画とのことです。



【海上・安心生活見守り訪問員の皆さん】



【前段で実施した訪問員フォローアップ研修の様子】

海上地区では、現在十九名の訪問員の方々が、二十八名のご高齢者を対象にした見守り訪問活動に取組んでおります。昨年末の地域福祉事業では、その前段に於いて、訪問員フォローアップ研修(十一月十一日)を実施。講師に地域包括支援セ



伊藤 洋一 会長

相談事例の学び踏まえ 相互の絆をより豊かに

センター「ひまわり」の四方センター長を招き、ご高齢者の悩みや相談事例について、お話を頂きました。



【光風台 お菓子とクリスマスカードのセット】

当地区に於ける歳末たすけあい運動は、ネットワークと民生児童委員ならびに光風台小学校の協力事業として、年末のクリスマス日程に合わせて、お菓子とクリスマスカードをセットとしてお届けしております。地域性から、七十歳以上の独居のご高齢者様に限られた取組みですが、今回の取組みでは、二百



進藤 誠 会長

お菓子とクリスマスカード 小学生の真心添えて

三十余名の方々へ、小学生に作って頂いたカードへの真心添えて宅配させて頂きました。なお、各戸への配布は、地区の民生

光風台小学校区 小域福祉ネットワーク



【養老 健康グッズの袋詰め】

あったかネット養老は、歳末福祉事業として、地域にお住まいのご高齢者(二人暮らしの方)三十八名の方を対象にクリスマスプレゼントをお届けす



本吉 孝夫 会長

健康への気遣い通じ 連帯を深める一助に

養老小学校区 小域福祉ネットワーク



【養老 民生委員が各戸を訪問】

る取組みを展開しました。プレゼントの内容は、感染予防用のマスク・除菌スプレー・ホカロンをセットにし、民生児童委員の方々の協力を頂き、月次の見守り活動と併せて各戸を訪問。会話を通じて、不安の解消や健康への気遣いに努め、住民相互の連帯を深める一助となりました。

児童委員の皆様にお越し、ご高齢者の元気な様子も併せて、確認頂く取組も致しました。今後、光風台地区では、今後も地域住民のつながりを大切にした取組みを進めてまいります。



↑ 各戸を民生委員が訪問

【感謝のお手紙を受信】→



海上小学校区 小域福祉ネットワーク

回顧録

第5弾



元千葉県警察本部
水上警察隊 統括船長
佐川 良晴

シリーズ ①

~~~~~  
本号より、海上保安庁を経て千葉県警察本部水  
上警察隊統括を歴任された市西地区小野山団地へ  
お住いの佐川氏にその半生を振り返って頂きます。  
~~~~~  
私は昭和十九年五月
九日、横浜の地に生ま
れた。私がこの世に生
を受け、今あるのは、父
のある決断によるもの
と思う。
当時は太平洋戦争の
末期(家族両親・姉)
は東京大田区池上に住
んでいた。
米軍の空襲が厳しさを
増す中、私の懐妊を

戦中戦後の厳しさを超え 千葉県大多喜町で幼少期過ごす

幸い池上の家は難を
免れたことから、再び
家族は東京に戻ったも
の、食の調達は困難
を極めた。
このため父は故郷へ
ある千葉県大多喜町へ
食料を求める日々が続
いたと言う。
この食料確保と往復
に多くの時間を費やす
ことから、父は自給自
足の道として、農業で
の生計を決定。
私と姉は叔母の家へ
預けられ、両親は開墾
を伴う農業へ従事する
こととなった。この時
の苦労が母の死期を早
め、私にとっては実母
の記憶が欠けている。
私が四歳の頃、父は
大多喜の地で再婚し、
幸い池上の家は難を
免れたことから、再び
家族は東京に戻ったも
の、食の調達は困難
を極めた。
このため父は故郷へ
ある千葉県大多喜町へ
食料を求める日々が続
いたと言う。
この食料確保と往復
に多くの時間を費やす
ことから、父は自給自
足の道として、農業で
の生計を決定。
私と姉は叔母の家へ
預けられ、両親は開墾
を伴う農業へ従事する
こととなった。この時
の苦労が母の死期を早
め、私にとっては実母
の記憶が欠けている。
私が四歳の頃、父は
大多喜の地で再婚し、



【 訓練開始のオリエンテーションに参加した地域住民の皆さん 】



【 ボランティア受付の会場となったサンハート玄関ホール 】



【 ボランティア派遣先マッチング班の打合せ 】

【 グループ別訓練(簡易ペット組立) 】

改選期にあたり、民児
協会長に推挙されました
川上 保 民児協会長
三和地区民児協は、地
区内三十五の地区割りか
ら、それぞれ地域の推薦
に基づく民生児童委員
(以下、民生委員と称しま
す)と主任児童委員二名



川上 保 民児協会長

社会奉仕の精神に重き 必要スキルの習得に力点

を合わせた三十七名で構成
される組織です。
民生委員は、社会奉仕
の精神を持って、常に地
域住民の立場に立った相
談に応じ、必要な援助を
行い、社会福祉の増進に
努めなければならぬとい
われています。また、民
生委員は専門職であり
ませんので、住民からの
相談の全てを抱えこまな
いよう留意しつつ、地域
福祉の担い手として、地
域住民の相談に応じ、行
政を始め、適切な支援や
サポートをします。
民生委員は、社会奉仕
の精神を持って、常に地
域住民の立場に立った相
談に応じ、必要な援助を
行い、社会福祉の増進に
努めなければならぬとい
われています。また、民
生委員は専門職であり
ませんので、住民からの
相談の全てを抱えこまな
いよう留意しつつ、地域
福祉の担い手として、地
域住民の相談に応じ、行
政を始め、適切な支援や
サポートをします。

災害 ボランティアセンター 設置訓練に学ぶ

二月十一日、三和コミ
ュニティセンター、サン
ハートの両施設を使い、
三和地区に於ける大規模
災害の発生を想定した災
害ボランティアセンター
の設置訓練が市社協主
導で開催されました。
当日は市社協職員に加
え、市内防災組織ならび

に三和地区の各種団体か
らの参加者も含め、総勢
百十余名が訓練に参加。
全体の半数を駆けつけた
ボランティア役には、残
る半数をボランティアの
受け入れ側に見立てた模
擬訓練を実施。
多数の人々をいかにス
ムーズに誘導するか、い
かに適切な指示を与える
ことが出来るのか、実際
に体験してみると多くの
課題が浮上し、反復訓練
の必要性が認識されまし
た。
また、各役割のグルー
プごとには、避難先での
パティシジョンや簡易
ベッドの組立体験、倒木
の対処法・救護訓練等も
学ぶ一日となりました。



各地区から推薦された民生・児童委員

	委員名	受持ち地区
市西	青木佑紀子	新区
	今井 修	山 倉
	大塚 博	大 坪
	小出満寿男	中谷原・三又・相川
	鶴岡 孝一	新 堀
	植田 貞夫	海士・西ヶ崎
	土岐 広美	小野山
	花見 明	福 増
	松下 正明	有 木
	三橋 守	武 士
養老	石橋喜代子	山 田
	岡 奈美	川 在
	川 萬	新 巻
	柏 新治	磯ヶ谷
	小泉 忠志	二日市場
	鈴木 泰代	松 崎
	高石 嘉典	大桶・旭台
	服部 郁夫	土 宇・櫃 挾
	矢井 和	宮 原
	高石 和美	新 生
海上	中島 光昭	分 目
	布施 好幸	安 須・高 坂
	村越 薫	系 久・権現堂
	吉田 義男	浅井小向
光風台	小名 良一	光風台3丁目中
	尾関 麻生	光風台5丁目東
	川上 保	光風台1丁目西
	木橋 則博	光風台3丁目北
	木島 千鶴	光風台4丁目北
	小林 秀雄	光風台坂上・みすみ・百合ヶ丘
	白井 秀幸	光風台2丁目中央・サビュー
	滝村 秀男	光風台4丁目南
	平野 恵子	光風台1丁目東
	松本 光夫	光風台3丁目南
主任児童委員	矢吹 国夫	光風台5丁目西
	石井 進	市西小・養老小・三和中
委員	木全美加子	海上小・光風台小・双葉中

※委員氏名は地区内50音順、敬称は省略させて頂きました。